

兵庫県立加古川北高等学校 担当教科：数学科

桂 広

■実践教科：現代社会／LHR(人権)

■指導時数：4時間／3時間

■対象学年：高校3年生／高校2年生

■対象人数：14人／39人

### ◆教師海外研修を通して感じたこと

タンソンニヤット国際空港や道路、日本の企業の大きな広告看板などを見ると、インフラ整備や経済発展に日本が円借款など様々な形で貢献していることがよく分かった。

ベトナム人はとても親日で、頭もよく、勤勉で先進国から学ぼうとしている。日本との仕事が増えてきたので、日本語を学ぶベトナム人も増えてきている。また、働いている社員の年齢が若いことや、人口増加による人口ピラミッドの分布など、日本の高度経済成長期を迎える時期に似ている。若者が「夢」や「希望」を持って大変真面目に勉強し、目上を尊敬し、家族を大事にすることなど、ベトナムには日本が失ってしまったものが多くあるように感じた。

教師海外研修に参加して私は、ココが変わった！

### BEFORE

日本は幼少期より様々な形でお金を払えば教育が可能。そして、中学まで義務教育で必ず勉強ができる、高校、大学と進学しやすく、学ぶ環境には恵まれている。

- ◆経済成長の目覚ましい途上国
- ◆貧富の格差
- ◆戦争の後遺症
- ◆社会主義国家によるトップダウン
- ◆人件費が安い
- ◆インフレ状態にあるので、働けば働くほど景気が良くなる。
- ◆バイク社会

### AFTER

日本は恵まれすぎていて、進学することが当たり前。ベトナムの人は親のため、国のために、そして自分自身のために意欲的に学習に取り組んでいる。

ベトナムの子どもは精一杯生きている。大人は楽天的な人が多い。対照的に、日本では、若者だけでなく大人も、年金や医療について将来の不安を抱きながら生きている。働く目的、生きる目的などを見失ってしまう人間も増えてきた。

「学ばざるもの大学進学するべからず」  
何のために学ぶ、何のために働くのかを考えるようにさせ、進路実現に向けて努力する姿勢を養う。

## 授業の詳細

### 1. カリキュラム

#### (1) 実践的目的/背景

理系の教師の立場で、理工学や看護・医療を目指す生徒に「開発途上国には日本の理系・医療系の知識・技術が必要」であることを伝える。ベトナムの現状、経済成長などを写真や動画を使用して興味を持たせ、ベトナムなどの途上国について考えるきっかけをつくる。そして、ODAについて学び、日本が途上国に対して実施している国際協力や援助の現状、今後の課題について意見交換をさせる。自分自身が出来る支援を考え、共生することの大切さを自覚させる。

また、センター試験の過去問題を利用して、国別年代別のデータを比較し、世界の流れを知る。エゴイストにならず、視野を広げてグローバルに活躍することのできる人間を育てたい。

#### (2) 授業の構成

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1時限目 ベトナムを知る (異文化理解)	<ul style="list-style-type: none"><li>・事前に実施したアンケートの結果について<ul style="list-style-type: none"><li>* 日本(加古川北2年3年)とベトナム(外国貿易大学)のアンケートを比較する。</li></ul></li><li>・写真・表・図を用いて説明(PPT)  ＜ベトナムの概要＞ 　国名、地理(気候)、歴史、国民、経済、国際関係</li><li>・日本とベトナムの関係<ul style="list-style-type: none"><li>* 関わりを歴史的な背景とともに考えさせる。</li></ul></li><li>・GDP 成長率<ul style="list-style-type: none"><li>* 日本与中国、ベトナムを比較する。</li></ul></li><li>・動画を用いてベトナムの現状を説明</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・アンケート結果 (日本・ベトナム)</li><li>・写真・図・表 (パワーポイント)</li><li>・動画</li></ul>
2時限目 国際社会と人類の課題	<ul style="list-style-type: none"><li>・パワーポイントを用いて、現代社会の教科書の内容を解説<ul style="list-style-type: none"><li>①核兵器と軍縮</li><li>②環境・人口・食糧問題</li><li>③民族問題と紛争</li><li>④国際社会と人権</li></ul></li><li>・ODAなど、日本とベトナム(開発途上国)の親密な関係を理解させる。</li><li>・JICAによる国際協力(援助)を解説</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・写真 (パワーポイント)</li></ul>
3時限目 国際協力(援助)について 考える (多文化共生)	<ul style="list-style-type: none"><li>・前回の授業内容について質問</li><li>・途上国への援助について考える。 (ワークショップ) 「教育」に着目して、援助の在り方について意見交換する。<ul style="list-style-type: none"><li>* 国際協力への姿勢、問題解決への姿勢を養うきっかけとする。</li></ul></li><li>・アンケート(まとめ)</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ワークシート</li><li>・アンケート用紙</li></ul>
4時限目 (現代社会) ODAについて センター試験の過去問を 解説	<ul style="list-style-type: none"><li>・ODAに関する問題を抜粋し、センター試験の過去問を解かせる。</li><li>・過去のデータと最新のデータを比較して、過去に出題された問題の正誤を確認する。</li><li>・ベトナムコーヒーを飲みながら話し合い</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・センター試験過去問のプリント(現代社会)</li><li>・ベトナムコーヒー (湯・カップ・砂糖・ミルク)</li></ul>

## 2. 授業の詳細

### 1時限目 「ベトナムを知る」

#### ■目標

事前に実施したアンケートを比較し、考えの違いを認識する。

ベトナムのイメージを共有する。(写真・動画)

日本のベトナムへの依存、ベトナムの経済成長などを理解する。



バイク社会

#### ■内容

①アンケートを比較する。

「もし自分が何でもできるとしたら、どんなことをしてみたいですか。」の項目について、日本とベトナムの違いを話し合う。

②ベトナムの概要(位置、人口、民族、気候など)を説明する。

#### <ココがポイント>

雨温図を比較気候によって、食物、植物、文化が異なることを確認する。

ハノイ 溫暖冬季少雨気候(Cw)

ホーチミン サバナ気候(Aw)

#### ◆アンケート◆

#### ベトナムのイメージ

米の生産／バイク／物価が安い／ドイモイ／フォー／戦争／縫長／大人の女性が綺麗／地雷、勉強好き、木の家／気候が暑い／コーヒー／生春巻き／明るくて、子供がたくさんいるイメージ／市場／裕福でなくても楽しそう

③産業・経済について説明する。

身近なものでベトナムより輸入されているものを探す。

経済成長率を国別、年代別で比較する。

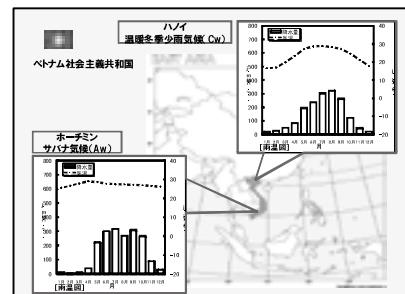
貿易相手国を紹介して、日本との関わりを説明する。

#### <ココがポイント>

日本と中国、ベトナムを比較する。

日本の 56-73 年度の高度経済成長期も紹介する。

日本はベトナムにとって最大の援助国である。



ハノイとホーチミンの雨温図

④ベトナムの歴史

千年を超える中国支配を経験した中国文化圏最南端の国

- 1883 フランス保護国となる。
- 1945 ベトナム民族共和国成立
- 1955 南部でベトナム共和国成立
- 1965 米軍直接介入(北爆)開始
- 1973 パリ和平協定調印
- 1975 無条件降伏(サイゴン解放)
- 1976 南北統一(ベトナム社会主義共和国成立)



ベトナム戦争(戦争証跡博物館)

⑤難民問題について説明する。(ボート・ピープル)

⑥動画を用いて、ベトナムの現状を伝える。

#### ■生徒の感想

- ◆ベトナム人は世界や国、両親のことを考えているが、日本人は自分のことしか考えていない。
- ◆日本人はベトナムについてあまり知らないが、ベトナム人は日本について良く知っている。
- ◆日本人には『夢』が無い。
- ◆ベトナムの GDP 成長率が日本よりはるかに上なのには驚いた。
- ◆バイクの量が凄い。クラクションの音がうるさいので、賑やかな感じがした。

## 2時間目 「国際社会と人類の課題」

### ■目標

現代社会の教科書の内容を解説する。  
ODAについて説明し、途上国への援助についての現状を教える。  
JICAによる国際協力(援助)を紹介する。

### ■内容

①教科書(現代社会)の内容を、PPTを用いて解説する。

#### ① 核兵器と軍縮

第二次世界大戦後の「軍縮の歩み」(核兵器廃絶への取り組み)

##### <ココがポイント>

- 1996年 包括的核実験禁止条約(CTBT) 採択
- 1998年 インド、パキスタンが核実験
- 2008年現在でも核兵器全廃は実現していない。

#### ② 環境・人口・食糧問題

- ・途上国での「人口増加」「都市集中」
- ・世界全体の穀物生産量約20億t(120億人分)の約4割が家畜  
※先進国と途上国を比べ、これらの問題の原因を考える。

#### ③ 民族問題

- 難民について学習する。
- ・難民を生み出す原因
- ・難民の地位に関する条約

##### <ココがポイント>

- インドシナ難民の日本の受け入れ  
昭和50(1981)年 「ポート・ピープル」到着 9隻126人
- 昭和53(1983)年 インドシナ難民定住受け入れ開始  
※他国の受け入れ状況と比較する。

### 非核三原則

「日本は日米安保条約に基づきアメリカによる核の傘を受けており、意味が無い。」「日本にも核兵器を保持するべきとの日本核武装論」という意見も存在する。



ポート・ピープル(東シナ海)

②ODAについて、PPTを用いて解説する。

#### ① 無償資金協力〔返済義務無〕

⇒ 生活基盤分野

#### ② 有償資金協力(円借款)〔穏やかな条件で円を貸付〕

⇒ 経済・社会基盤整備・環境改善等

#### ③ 技術協力

⇒ 専門家・ボランティア派遣、研修生受け入れ  
ベトナムにおける円借款や技術協力の現状を、映像を用いて紹介する。

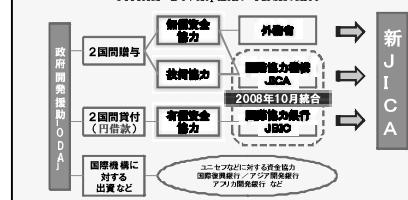
③国際協力(援助)をする理由を考える。

### ■生徒の感想

- ◆日本が今までにもらつたことを世界に恩返ししていくことは、当たり前だと思うし、今、援助を受けている国々が今度は他の国に援助していくような循環を生んでいくべき良いと思う。でも、自国に大きな負担にならない程度を保ってほしい。
- ◆日本で無駄な税金を使うくらいなら開発途上国に援助して欲しい。

### ODA(政府開発援助)

Official Development Assistance



政府開発援助 ODA

### 3時限目 「国際協力(援助)について考える」

#### ■目標

- 前回までの内容について復習(確認)する。
- グループで考えて、知識を共有する。
- 援助において、「継続」することの大切さを理解させる。
- 「正しい援助」と「間違った援助」について考える。
- 開発途上国に対しての日本の役割を考える。

#### ■内容

- ①ワークシートで前回までの授業内容について質問する。
  - Q1. ベトナムの概要について
  - Q2. ベトナムと日本の関係について
  - Q3. なぜ援助(国際協力)をするのか
  - Q4. 貧困問題を解決するために必要なもの

#### ②教育について意見交換

修学旅行の研修班(6名～8名)分かれ、支援のあり方について考える(ワークショップ)  
※日本のメディアが「学校を建てよう」と呼びかけるケースがある。支援(募金)で学校が建った後に生じる問題点・課題について意見交換する。  
⇒「本当に大切なのは何か」を気付かせる。

#### 【アンケート】あなたが出来る開発途上国への国際協力

##### ◆生徒の意見

- ◆その国の事をもっとよく知ること。
- ◆節水、食べ残しをしない。(途上国に住む人々が普通の生活が出来ていないことを思って行動)
- ◆まずは募金をして協力する。
- ◆食べ物や衣類などの物を買うと同時に募金になる物を選んで買う。
- ◆将来、看護師として海外へ行き、医療の不足を助ける手となる。

#### 【アンケート】開発途上国に対しての日本の役割

##### ◆生徒の意見

- ◆稲作技術の伝承
- ◆支援をし続けること
- ◆今のような国への支援の在り方では、本当に相手国の人々へ支援が行き渡っているか疑問。支援先の政治家の私腹を肥やすために使われていては意味がない。直接、国民の支援が渡るように出来る限り配慮していくことが日本の役割だと思う。
- ◆お金や物資を送るだけでなく、日本の技術(農業や医療)を教えていくべきだと思う。でも、1番に子どもの教育を充実させるべきだと思う。
- ◆外国を支援する前に、国内の景気をどうにかして欲しい。
- ◆技術を発展させて、自分たちの力で経済がうまくまわるように支援していくことです。あと、新たな産業を見つけて発展するように協力することです。
- ◆開発途上国に実際に行ってお金を使う。本当に生活に困っている人たちにお金を使ってもらわないといけないと思います。また、日本が大きな会社を建てて、現地の従業員を雇い仕事をしてもらうのが良いと思います。

#### 1. 無償資金協力

返済の義務を課さない  
資金協力



低開発国向け

主に基盤生活分野  
学校、井戸、病院など

#### 2. 有償資金協力(円借款)

ソフトローン  
(低利・長期)



融資規模

- ・年承諾額：約8千億円
- ・貸付残高：約12兆円



様々な課題への融資

- ・経済・社会基盤整備
- ・環境改善 等

## 4時限目 「ODAについて」(現代社会)センター試験の過去問

### ■目標

ODAに関する問題を抜粋し、センター試験の過去問を解かせる。

過去のデータと最新のデータを比較して、過去に出題された問題の正誤を確認する。

テレビ会議システムで交信し、世界は繋がっていることを体験する。

### ■内容

①センター試験の過去問題を解かせる。

( 1997 年度 本試験 現代社会 第7問 B )

②解説をしながら、答え合わせをする。

③1994年と2007年のデータを比べて、解答の誤りを指摘する。

## ODAの地域別配分(日本)

1994 ドル・ベース(百万ドル)

地域	無償資金協力	技術協力	贈与計	政府貸付等	政府開発援助計	%	備考
アジア	1,101.09	1,141.39	2,242.48	3,301.59	5,544.07	57%	注: 卒業国を含む
中東	196.43	119.71	316.14	413.9	730.04	8%	注: 卒業国を含む
アフリカ	722.42	210.79	933.21	231.6	1,164.82	12%	
中南米	188.39	336.22	524.61	307.55	832.16	9%	
世界	2,402.90	3,020.31	5,423.21	4,257.27	9,680.48		注: 東欧及び卒業国を含む

2007 ドル・ベース(百万ドル)

地域	無償資金協力	技術協力	贈与計	政府貸付等	政府開発援助計	%	備考
アジア	511.79	868.6	1,436.73	196.4	1,633.13	28%	注: 卒業国を含む
中東	910.01	114.52	1,172.40	-223.42	948.98	16%	注: 卒業国を含む
アフリカ	1,364.54	237.39	1,785.06	-84.53	1,700.53	29%	
中南米	149.17	189.01	343	-147.39	225.61	4%	
世界	3,416.10	2,630.01	6046.1	-206.06	5,840.04		注: 東欧及び卒業国を含む

### 貸付実行額 回収額

5,747.36 -5,953.43 = -206.06

### 2007年度 ODA実績

1位 米国 2位 ドイツ 3位 フランス 4位 英国 5位 日本 6位 イタリア

④テレビ会議システムを使用した際に撮影した画像を見る。

インターネット回線でリアルタイムの交信が出来る方法を教え、実際に情報教室で行う。



日本(兵庫県立加古川北高等学校) ⇄ ベトナム(外国貿易大学)ホーチミン 2009/07/31

## ◎所感

現地で撮った写真を使い、パワーポイントなどを使用してベトナムについて説明したとき、日本と異なるものに対しての反応は良かった。また、動画を見せたときの反応は凄かった。写真よりも動画の方が興味を持たせるのには良いことを再認識しました。2年生はベトナムについての知識が少なかつたが、3年生は政治・経済や食文化などの知識、将来の仕事に対しての関心など、同じ高校でも1年間の差がよく分かった。

「教育」についてのワークショップでは、女子のグループが積極的に考え方意見交換し、発表していた。ベトナムは女性上位の国と感じたが、日本の高校生も同じように思われた。

民主党政権下での内閣府による行政刷新会議、いわゆる「事業仕分け」の時期にODAについて学習したので、具体例を挙げながら説明できたのは良かった。日本の税金からODAが支出されているので、もっと生徒たちは関心を持つべきである。

授業の数時間で人間の考え方は変わらない。しかし、知らないことを学び、気づき、考えることによって今後変わるきっかけになったはずである。これからは個々にいろんなことを経験し、国境を越えた人間一人ひとりの生命や人権を重視することのできる人間になるべく学問に精進してもらいたい。

## 3. 成果と課題

### 【成果】

高校の現代社会の授業で、数学教師が国際協力について語ることによって、この問題は教科を越えて「学ぶべき」「考えるべき」内容であることが伝えられたと思う。人権HRでは、異文化理解・多文化共生について学ぶ機会があったので、具体的な途上国として「ベトナム」を挙げて授業ができた。ベトナムに行ってきたという事実をもとに話をするので、説得力があり、反応も良かった。「なぜベトナムなんですか?」「なぜ日本が不景気なのに外国へ援助するんですか?」など質問がでてきた。それは素直な意見であり、大切にして先ず聞き入れて、丁寧に写真・動画・データ等を使用して解説した。音声のある動画は反応が良く、いきいきとした目をしていた。

日本以外の国に行くことにより、初めて自分が「日本人」であることを認識する。エネルギー問題、食糧自給率などについて話をし、資源のない島国の日本が海外の国々に依存していることを自覚させることができた。それにより、今まで世界規模で起きていたことを他人事のように考えた生徒も、世界は繋がっていることが分かり、今後の人生において日本人として何ができるかを考えるきっかけ作りができたようと思われる。

### 【課題】

帰国後に日本からベトナムへ電子メールで御礼を伝えた。すぐに返事があり、メールのやりとりをしていくこうと思っていたが、しばらくして交信が途絶えてしまった。帰国後に再度テレビ会議を学校から実施しようと考えていたが、継続して連絡を取れていなかったので実現できなかったのは反省している。また、機会を見計らってホーチミン以外でも良いので交信したいと考えている。

- ①伝える 機会があれば、高校生に「途上国について」「国際協力について」の話をしていく。
- ②続ける 今回だけでなく、国際情勢は日々変化しているので、今後も情報収集を続けていく。  
そして、生徒に伝え続けていく。
- ③繋がる 電子メール等を使用して諸外国と交信する。  
外国人や開発教育等に携わる人と交流する機会をつくる。

## 参考資料

『我が国の政府開発援助』外務省経済協力局  
高等学校公民科用文部科学省検定教科書『現代社会』東京書籍

【参考ホームページ URL】 外務省 <http://www.mofa.go.jp/mofaj/>

### センター試験 本試験 1997 年「現代社会」

#### 1997 年度 本試験 現代社会 第 7 間 B

B 第二次世界大戦後、先進国が行ってきた政府開発援助(ODA)は、発展途上国との経済開発において大きな役割を果たしてきた。しかし、かつての宗主国と植民地の関係や、東西冷戦構造を背景として、それは「援助競争」の様相を呈していた。政治的考慮にもとづく援助や、「ひもつき援助」のように供与国の産業の利益を重視した援助がしばしばみられたのである。現在でも供与国側の国益が優先する援助がなくなったわけではない。このことは「先進各国の ODA の地域別配分」の状況にもうかがわれる。

④ 日本の ODA は 1950 年代に開始されたが、贈与が本格的に実施されたのは 70 年代、援助理念が確立したのは 80 年代に入ってからのことである。一方、その援助額は急速に増大し、1989 年には日本は世界一の供与国になった。1990 年代に入り、世界は東西冷戦構造の崩壊という大きな転換期を迎えた。『国際社会における開発問題はますます多様化している』1991 年の ODA 四指針(援助実績指針)や翌 92 年の ODA 大綱の発表は、こうした国際情勢への対応の表れといってもよい。

問 1 下線部(4)に関連して、次の表は、1992 年、2006 年における日本、アメリカ、フランスの ODA の対 GNP 比と地域別配分を示したものである。A、B、C、G が図の組合せとして最も適当なものを、以下の①～⑩のうちから一つ選べ。38

1992 年

援助 供与国 対 GNP 比	ODA の 地域別配分 (%)				
	アジア	中 東	アフリカ	中南米	その他
A	0.63%	10.6	15.4	49.5	3.1
B	0.14%	7.8	40.1	18.6	11.3
C	0.26%	65.1	4.8	10.1	9.1
G					22.2

外務省経済協力局『我が国の政府開発援助』(1994 年)により作成。

2006 年

援助 供与国 対 GNI 比	ODA の 地域別配分 (%)				
	アジア	中 東	アフリカ	中南米	その他
A	0.50%	7.0	22.1	55.8	3.9
B	0.20%	6.8	37.0	12.9	6.2
C	0.20%	27.6	14.1	34.1	9.1
G					15.1

外務省経済協力局『我が国の政府開発援助』(2008 年)により作成。

- ① A 日本      B アメリカ      C フランス  
② A 日本      B フランス      C アメリカ  
③ A アメリカ      B 日本      C フランス  
④ A アメリカ      B フランス      C 日本  
⑤ A フランス      B 日本      C アメリカ  
⑥ A フランス      B アメリカ      C 日本

問 2 下線部(4)に関連して、日本と ODA のかかわりについての記述として最も適当なものを、次の①～⑩のうちから一つ選べ。39

- ① 日本が ODA を開始した背景には、他のアジア諸国に対する戦後の賠償問題がある。  
② 他の先進国との比較において日本の ODA では、借款よりも贈与の占める比率が高い。  
③ 他の先進国との比較において日本の ODA では、『橋・渠・発電所などの大型プロジェクトの占める比率が低い。』  
④ 日本は、戦後、アメリカや国際機関からの ODA を受け入れずに、急速な復興と高度成長を遂げた。

問 3 下線部(5)に関連した記述として誤っているものを、次の①～⑩のうちから一つ選べ。40

- ① NGO(非政府組織)を活用し、住民の福祉に寄与したきめ細かな ODA を実施することが求められている。  
② 相手国の経済成長への寄与を重視する ODA プロジェクトであっても、地球環境への影響に配慮することが求められている。  
③ 相手国に著しい軍備増強や人権抑圧があつても、貧困の度合いに応じて ODA を供与することが求められている。  
④ ODA の実施にあたっては、受入側である発展途上国での意見を反映させることが求められている。

【解答 3】<7000517> 1997 年度 本試験 現代社会 第 7 間 B

問 1 ⑩      問 2 ①      問 7 ⑩